



夏休みの思い出を胸に学校生活のスタート

校長 手代木 英明

猛暑も一段落し、ツクツクボウシの鳴き声に夏の終わりを感ずる季節となりました。長い夏休みが終わり、子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。

7月21日(火)～30日(木)の早朝には、青少年対策西原地区委員会(会長 福田 博多様)主催の「ラジオ体操」が校庭で行われました。代々木中学校のボランティアの生徒がお手本となり、元気な子供たちがたくさん参加しました。7月19日(土)～20日(日)の西原商店会(会長 柴田 圭一様)主催の「にしはら夏祭り」には、西原小PTAのブースもあり、盛大に行われました。JICA東京のイベントにも、西原小の子供たちがたくさん参加していました。その他にも、いろいろな夏の行事が地域で行われました。地域の皆様に子供たちが大変お世話になりました。

学校行事としては、プール7月21日(火)～31日(金)と富山臨海学園7月21日(火)～23日(木)、那須自然体験教室7月28日(火)～30日(木)を実施しました。

5年富山臨海学園は、海に親しみ、安全に海水浴をすることが目標です。私が子供の頃は、「夏と言えば海!」という時代でしたから、家族で海水浴に行っていました。ところが、最近は海水浴を楽しむ家族が減っていて、「今回の富山臨海が海水浴初体験」という子もいました。海に入ると「ベタベタする」「危険で怖い」「クラゲが嫌だ」という人もいますが、海は生命の源です。潮騒を聞いて、波に揺られると体がリフレッシュする感じがします。また渋谷区では、臨海学園に「ライフセービングのお話」を取り入れています。溺れたときや溺れている人を見たときの対処の仕方や離岸流について学びました。ビーチクリーニングもしました。海で泳ぐことだけでなく命を守ることや自然から受ける恩恵と、それを何かの形で還す行為を小学校のうちに学んでおくことはとても大事なことです。

6年那須自然体験教室は、茶臼岳登山と飯盒炊さん&カレー作りをしました。子供たちにとって、登山は楽なものではありませんでしたが、薪に火をつけるところから自分たちの力で行った飯盒炊さん&カレー作りも苦労していました。2時間もかけて調理したカレーライスは、格別な味がしたはずです。さらに思い出に残ったことは「闇夜体験」でしょう。保安灯を含め、すべての照明を消して、林を切り開いて造られたキャンプファイヤー場に全員で車座に座りました。すると、虫の音が聞こえてきました。しばらくして目が慣れてくると「ホタルだ!」と林の中を飛ぶホタルを見つけた子が声を上げました。「どこ、どこ?」とみんなで探していると、みんなの頭の上を1匹のホタルが飛んでいきました。那須の自然がくれた最高のプレゼントでした。



離岸流は、このあたりにできるんだ。



富士山と伊豆大島が見えました。



天候に恵まれ、最高の登山でした。